酒田市美術館・土門拳記念館共同企画

2つのまなざし

江成常夫と土門拳

ーヒロシマ・ナガサキー

江成常夫《浦上天主堂焼け跡で見つかった被爆マリア像(500m)》2019年

2022年9月3日(土)～10月16日(日)

【お願い】
ご来館の際は、マスクの着用、手指の消毒、他の来館者との適切な距離の確保にご協力ください。また、状況により展覧会の内容の変更、及び入場制限を行う場合がございます。
最新情報は酒田市美術館ホームページにてご確認ください。

開館時間　9：00～17：00（最終入館16：30）
休 館 日　会期中無休
観 覧 料　一般900円(800円)、高校生450円(400円)、中学生以下無料
２館共通券1,200円
年間券3,300円、２館パスポート6,000円

※年間券と２館パスポートは3名様まで1年間何度でもご利用できます。
※（ ）内は20名以上の団体料金
※大学生・専門学生は一般料金となります。
※障がい者手帳をお持ちの方、およびその介助者１名の観覧料は半額となります。
（2館共通券は対象外）

主催　公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館、土門拳記念館
共催　酒田市、酒田市教育委員会
協力　相模原市

Sakata City Museum of Art
酒田市美術館
〒998-0055 山形県酒田市飯森山3丁目17−95
TEL 0234-31-0095
http://www.sakata-art-museum.jp/

酒田市美術館・土門拳記念館共同企画

2つのまなざし

江成常夫と土門拳

ーヒロシマ・ナガサキー

土門拳《原爆病院の患者たち／少年／前頭部醜形瘢痕切除縫合》1957年

2022年9月3日(土)～10月16日(日)

開館時間　9：00～17：00（最終入館16：30）
休 館 日　会期中無休
入 館 料　一般700円(550円)、高校生350円(280円)、中学生以下無料
２館共通券1,200円
年間券3,000円、２館パスポート6,000円

※年間券と２館パスポートは3名様まで1年間何度でもご利用できます。
※（ ）内は20名以上の団体料金
※大学生・専門学生は一般料金となります。
※障がい者手帳をお持ちの方、およびその介助者１名の入館料は半額となります。
（2館共通券は対象外）

【お願い】
ご来館の際は、マスクの着用、手指の消毒、他の来館者との適切な距離の確保にご協力ください。また、状況により展覧会の内容の変更、及び入場制限を行う場合がございます。
最新情報は土門拳記念館ホームページにてご確認ください。

主催　公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館、土門拳記念館
共催　酒田市、酒田市教育委員会
協力　相模原市

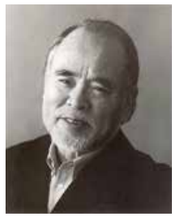
土門拳記念館
Ken Domon Museum of Photography
〒998-0055 山形県酒田市飯森山2丁目13（飯森山公園内）
TEL 0234-31-0028
http://www.domonken-kinenkan.jp/

1957年、原爆の惨禍を撮影するために土門拳が広島を訪れました。戦後12年を経てもなお生々しい傷を抱える被爆者の姿や、過酷な手術の現場などを目の当たりにした土門は、翌年に写真集『ヒロシマ』を発表。国内外に大きな反響を呼びます。同作に大きな影響を受けた写真家の1人が、当時20代前半だった江成常夫です。江成はその後自身の仕事の文脈を“戦争の昭和”に定め、様々な被写体と向き合っていきます。その間、彼の中には常に被爆地への思いがありました。そして終戦から40年後の1985年、初めて広島に踏み入り、今日に至るまで綿密な取材や撮影を継続。どのように“被爆”を写真化するか問い続けた末、2019年の写真集『被爆 ヒロシマ・ナガサキ いのちの証』では、被爆地の遺品や遺構などの「モノ」のみを徹底的かつ克明に写し出しました。土門と江成が異なる時代に / 異なる手法で表現してきた被爆の様相は、それぞれの視座から原爆の恐ろしさや平和への希求を重く深く訴えかけてきます。原爆投下から77年を経た現在も、世界では戦火が絶えません。本展における2人の写真家のまなざしが、戦争や平和を改めて考えていくきっかけになれば幸いです。

各館展示作品

	江成常夫作品	土門拳作品
酒田市美術館	ナガサキ 約60点	ヒロシマ 約30点
土門拳記念館	ヒロシマ 約60点	ヒロシマ／戦前－戦後ドキュメント 約100点

江成常夫 略歴



1936年、神奈川県相模原市出身。東京経済大学卒業。1962年に毎日新聞社入社。1974年退社し、フリーとなる。ニューヨークでの日本人「戦争花嫁」との出会いをきっかけに、以後中国にとり残された戦争孤児、孤児を生んだ「満洲」、「ヒロシマ」など一貫して「昭和15年戦争」をテーマに、草の根の視点に立って写真活動を続ける。著作・写真集に、『ニューヨークの百家族』(1976年・平凡社)、『花嫁のアメリカ』(1981年・講談社)、『シャオハイの満洲』(1984年・集英社)ほか多数。1981年木村伊兵衛賞、1985年土門拳賞、1995年毎日芸術賞、2002年紫綬褒章、2010年旭日小綬章などを受章。酒田市土門拳文化賞では1994年の賞創設当初から現在まで選考委員を務める。2015年酒田市特別功労表彰を受賞。現九州産業大学名誉教授。

ナガサキ

爆風を受け異形化したガラス片（200m）2016年

被爆死した金高フミさんの遺品（1km）2017年

国友さん宅の焼け跡で収拾したカップ（350m）2016年

江成常夫

ヒロシマ

核廃絶のモニュメント・原爆ドーム（旧広島県産業奨励館）（160m）2019年

爆死した渡辺玲子（12）さんの弁当箱（550m）2009年

学徒動員先で爆死した井上美代子（13）さんの下駄（550m）2018年

＊()内の数値は、被爆者の年齢や爆心地からの距離を示す。

ヒロシマ

土門拳

大野寮のこどもたち　1968年

原爆ドーム　1957年

原爆病院の患者たち／金時さん／左顔面醜形瘢痕植皮　1957年

原爆病院の患者たち／お母さん／左前膊部瘢痕攣縮Z縫合術　1957年

被爆者同士の結婚／小谷夫妻　1957年

懐中時計　1968年

土門拳 略歴

1909年、山形県酒田市出身。1935年、日本工房に入社し報道写真家として出発。戦後はリアリズム写真を提唱し、写真界に大きな影響を与えた。ライフワーク『古寺巡礼』をはじめ、『風貌』『ヒロシマ』『筑豊のこどもたち』など、日本社会の現実、日本の美や心を徹底して追求した作品を数多く発表した。1974年、酒田市名誉市民第一号となる。1981年、毎日新聞社が土門拳賞を創設。1983年10月、郷里酒田市に全作品を収蔵した土門拳記念館が開館。1990年、80歳で逝去。紫綬褒章受章、勲四等旭日小綬章受章のほか、多数の写真賞などを受賞。

『ヒロシマ』撮影中の土門拳（1957年頃）

関連イベント

記念フォーラム

「江成常夫と土門拳が写した被爆」

2022年9月3日（土）午後2時～
参加無料／定員200名（全席自由）
会場：東北公益文科大学　公益ホール

講　　師：江成　常夫（写真家）
司　　会：石川　　好（酒田市美術館館長）
パネリスト：佐高　　信（評論家）、阿部　博行（土門拳研究家）
藤森　　武（写真家・土門拳記念館学芸担当理事）
堤　　勝雄（写真家・土門拳記念館理事）
村上幸太郎（さかた文化財団理事長）

学芸員によるギャラリートーク
（参加無料／ただし要観覧券または年間券）

会場：酒田市美術館　展示室内（各回定員15名）
日時：2022年9月10日（土）午後2時～2時30分
10月15日（土）午後2時～2時30分

会場：土門拳記念館　展示室内（各回定員15名）
日時：2022年9月24日（土）午後2時～2時30分
10月8日（土）午後2時～2時30分

開館記念日 無料開放

会場：土門拳記念館
日時：2022年10月1日（土）

被爆ピアノ in 土門拳記念館

会場：土門拳記念館　　日時：2022年10月2日（日）
料金：参加無料　　［展示］午前9時～午後4時
（要観覧券または年間券）　　［コンサート］午後4時～

交通のご案内

◆JR東日本酒田駅／
乗合バス：酒田市美術館20分、
土門拳記念館17分
タクシー：10分
◆庄内空港／タクシー20分
◆日本海東北自動車道／酒田ICより10分
■駐車場／無料駐車場有
酒田市美術館：120台収容
土門拳記念館：普通車136台、
大型車9台収容